

2023. 3. 23

&lt;配信枚数2枚&gt;

報道関係者 各位

**「(ゴミ)を捨てる」から「(資源)を提供する」へ意識変化を促す**  
**大阪いばらきキャンパスに使用済ペットボトル回収装置の導入を！**  
**クラウドファンディングをスタート**  
～Bottle to Bottleを推進し、資源循環で未来につなぐ！～

立命館大学経営学部・中村真悟教授(以下、中村教授)と「Bottle to Bottleプロジェクト」は、使用済ペットボトルの再生利用率向上を目的とし、立命館大学大阪いばらきキャンパス内に使用済ペットボトル回収装置を導入するため、ブルーバックス・アウトリーチ(運営:株式会社講談社)を通じてクラウドファンディングを開始しました。

本件のポイント

- ペットボトル回収を通じ、CO<sub>2</sub>削減効果の「見える化」と、資源循環という社会課題解決を目指す
- 使用済ペットボトル回収装置を大阪いばらきキャンパス内に導入することにより、「(ゴミ)を捨てる」から「(資源)を提供する」へ学生・教職員の意識変化を促す
- 他施設への展開や、他プラスチック素材の資源循環への応用にも期待

○クラウドファンディング概要

- ・プロジェクト名: BOTTLE to BOTTLE を促進し、資源循環の輪を広げたい！
- ・代表者: 中村 真悟教授
- ・目標金額: 600,000 円
- ・期限: 2023 年 4 月 19 日まで(※)
- ・URL: <https://outreach.bluebacks.jp/project/home/29>  
※すでにクラウドファンディングは開始されています。

&lt;経営学部・中村真悟教授のコメント&gt;

2021 年 4 月より、学生達と「OIC キャンパスから発信する資源循環」をテーマに、ペットボトルをペットボトルに循環する学習、企業訪問、キャンパス内での回収実験、学園祭等での出展などを行ってきました。今回のクラウドファンディングはこれらの取り組みをさらに一歩進めて、ボトル専用回収機を導入し、実際にリサイクル事業者にてリサイクルしてもらうことで、CO<sub>2</sub>削減効果の検証や資源循環のビジネス上の課題の発見、モデル化をしていきます。そうすることにより、他キャンパス、他の施設への展開、応用も期待しています。またペットボトルを皮切りに他の資源循環にも取り組む予定です。資源循環は多くの方々の関心と「ほんのちょっとの“他者、社会へ”の気遣い」が重要になってきます。是非、本取組の応援をよろしくお願いします。

本リリースの配布先: 大阪科学・大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:池田

TEL. 075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumeai.ac.jp

## ■「Bottle to Bottle プロジェクト」

使用済ペットボトルを原料化し再生ペットボトルとしてリサイクルする(水平リサイクル)仕組みを大学内に構築するために2020年から活動中。

<メンバー>

・6名(経営学研究科院生、経営学部学生)

<活動内容>

- ・キャンパス内にペットボトル回収箱を設置し回収実験を行う
- ・ペットボトル再生に関わる企業との交流や工場視察
- ・ペットボトル水平リサイクルに関わる学習ツアーの開催



## ■Bottle to Bottle 活動について

Bottle to Bottle とは、使用済ペットボトルを原料化し再びペットボトルとして再生利用する取り組みです。これは、プラスチックの資源循環や CO2 削減、海洋プラスチックごみ問題解決に貢献すると考えられています。

ペットボトル回収・再生の取組は各地で既に行われていますが、回収時にラベルがはがされず蓋が付いたまま回収されることが多いため、回収後、再度ペットボトルに再生される割合は約 2 割に留まっています。この再生比率を上げペットボトルを資源循環させる必要があります。

中村教授と「Bottle to Bottle プロジェクト」は、この活動を促進するために、大阪いばらきキャンパスでペットボトル回収実験や啓蒙活動を行ってきました。今回のクラウドファンディングでは、大阪いばらきキャンパス内に専用回収機(リバースベンディングマシーン)を導入し、回収したボトル数や CO2 削減効果を見える化し、大学内で学生・教職員が環境に興味を持つ機会を創出し、大学内でのリサイクルシステムの構築を目指します。

## ■使用済ペットボトル回収装置(リバースベンディングマシーン)

本回収装置は、ラベル・キャップを剥がして、飲み残しのないボトルだけを回収する仕組みとなっています。また回収したボトルに軽く切り込みを入れて圧縮するため、積載効率を上げる機能もあります。また、この機器はボトル本数もカウントできるため、回収・運搬で発生した CO2 発生量の具体化と、石油由来でのペットボトル生産で発生する CO2 との比較ができるようになり、CO<sub>2</sub>を「見える化」することができます。

本回収装置を導入することにより、学内の学生・教職員が「(ゴミ)を捨てる」から「(資源)を提供する」へ意識の変化を促す機会とします。



使用済ペットボトル回収装置イメージ

## ■ブルーボックス・アウトリーチ

株式会社講談社が運営する科学の現場で活躍する研究者の方々と市民をつなぐ新しい形のクラウドファンディング・プラットフォーム。

本学は 2019 年に最初のパートナー機関として参加。現在まで本プロジェクトを含め、このプラットフォームを利用し 12 のプロジェクトを進める。

<立命館大学プロジェクト URL : <https://outreach.bluebacks.jp/partners/ritsumei> >